

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月11日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの目標や課題に丁寧に対応し、確かな学力を定着させるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取組む。</p> <p>②主体的な学習活動を中心に、意欲・関心を高め、社会人として求められる資質・能力を培う。</p>	<p>①生徒それぞれの特性に応じた授業を行うことで、わかりやすく効果的な授業を展開する。</p> <p>②生徒自身がICTを活用し、意欲・関心を高めた授業を展開する等、ICTの活用をさらに進めていく。</p>	<p>①習熟度別授業の展開や少人数学習、チームティーチング等を活用し、充実した学習の支援を行う。</p> <p>②生徒がICTを活用する際の支援を工夫しながら主体的な学習活動ができる機会を増やす。</p>	<p>①個々の特性を理解し、柔軟な学習の支援を行うことができたか。</p> <p>②ICTの活用を支援し、主体的に学習する機会が増えたか。</p>	<p>①生徒の特性や目標に応じて丁寧な授業を行うことでわかりやすい授業を展開することができた。</p> <p>②授業の中で生徒がICTを活用し学習する機会が増えた。また、情報機器の操作をスムーズに行うことができた。</p>	<p>①生徒の学力差がある中、習熟度別授業や、チームティーチング等、個々の生徒の特性に応じた、より丁寧な授業展開の成果を共有し、さらに高めていく。</p> <p>②基本的な操作には慣れてきている生徒が大半である。今後は、授業での活用方法も含め、どのように発展させていくかを検討する。</p>	<p>習熟度別授業やTTを活用して丁寧に授業を行っていることを高く評価する。個別最適な学びができるよう指導するとともに多様な生徒が協働的に学習する機会もできるだけ設けていきたい。</p> <p>学力差への対応も踏まえTT等を活用しながら、さまざまなデバイスを生徒が利用して学習できるような指導と研修や実践等、教員間の情報共有と組織的で積極的な取り組みをお願いしたい。</p>	<p>①生徒の特性に応じて、習熟度別授業やチームティーチング等を行うことで柔軟な学習の支援を行うことができた。今後はさらに発展・拡充することが課題となる。</p> <p>②ICTを活用する環境を整えていることは評価できる。生徒がICTを活用して、様々な学習が行えるように、研修や実践等、教員間の組織的な取り組みを行う。</p>	<p>①時間割等の工夫を行うことや、学習支援員の活用なども視野に入れて、更なる改善を検討していく。</p> <p>②ICTを効果的に活用した授業の実践例を授業改善や研究授業等で共有していく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒による主体的な行事運営を活性化させ、豊かな人間性を涵養する。</p> <p>②ルールに基づいた学校生活のもとで、しっかりとした判断力と規律を守る意識を育て、自律した社会人として成長するよう指導する。</p>	<p>①生徒が自主的に生徒会活動や行事の組織的な運営など、人間関係の形成に取り組めるように、活動の精査をすすめる。</p> <p>②学校生活において、集団の規律や社会のルールに従い、互いに協力しながら各自の責任を果たす力を育み、社会の一員としての自立を促す。</p>	<p>①行事ごとに十分な準備期間を設けると共に、振り返りと総括の機会を設け、次の行事や精査につなげる。</p> <p>②望ましい生活習慣の確立を目指し、指導・支援方針の周知を徹底する。また、生徒個々の課題解決に向け、組織的に支援の充実を進める。</p>	<p>①生徒が自主的に活動できる十分な準備期間が設けられているか。</p> <p>生徒減に対応できる運営体制が構築できたか。</p> <p>②校内における組織的な指導・支援方針の周知できたか。また、全校生徒の情報を共有し、個々に合った指導・支援を組織的に行えたか。</p>	<p>①各行事において、生徒会役員を中心に生徒が自主的に活動できるよう計画的に準備し実施することができた。また、生徒一人ひとりに役割を設け、積極的な活動を促すことができた。</p> <p>生徒活動の精査に関しては生徒役員と協議しながら生徒減に対応した生徒委員会の精査をすることができた。</p> <p>②校内における組織的な生徒指導・支援として本校における生徒指導の方針を教職員間で周知した上、生徒個々に応じた指導・支援を行うことができた。また、教育相談連絡会議を中心に、様々な背景を抱える生徒に対し、早期に情報共有し、SCやSSW、外部機関との連携で問題解決に繋げることができた。</p>	<p>①生徒減、教職員減に伴い、各行事の運営は生徒会役員を中心に、多くの生徒が関わらなければ難しくなっている。行事への参加率を増やすと同時に、多くの生徒が運営に関わり、個々が活躍できる場を設け、行事の活性化に繋げていく。</p> <p>②生徒の様子や時代の変化に適した生徒指導・支援が必要であることから本校生徒に合った生徒指導・支援を併せ持った生徒指導方針を検討していく。</p> <p>また、継続的に支援を要する案件が増えている。個々の課題解決に向け、引き続き組織的な支援の充実を進めていく。</p>	<p>生徒生活体験発表大会で2年連続全国大会入賞は「生徒指導・支援」の大きな成果である。継続していくことが重要である。</p> <p>行事運営について、生徒の自己肯定感を高めるために、生徒一人一人に役割を持たせることは有効であると考えている。仕事内容を具体化し、運営に参加しやすい工夫を検討して欲しい。</p> <p>生徒指導・支援の充実には、教職員間の連携連帯が欠かせないと思われる。個々に応じた指導・支援をお願いしたい。</p> <p>さまざまな困難を抱える生徒に対し、SCやSSWなどの専門職の活用で丁寧で適切な支援がなされている。教職員のスキルアップとさらなる連携を期待している。</p>	<p>①生徒会役員を中心に計画的に準備し、各行事を運営することができた。生徒活動の精査に関しては、生徒会役員と協議し、生徒委員会の精査をすることができた。</p> <p>今後も生徒減、教職員減が予想される。生徒の活動の場の削減に繋がらないよう、いかにして行事を活性化させていくかが課題である。</p> <p>②教育相談連絡会議を中心に、生徒個々の課題を早期に情報共有し、SCやSSW、外部機関との連携で課題解決に向け、組織的に支援を進めることができた。しかし、組織的な教育体制が、未だ周知されていない。運用方法に関して、全教職員への理解と、情報の共有方法が今後の課題である。</p>	<p>①生徒会役員を中心に、全校生徒が行事運営に関わり、個々が活躍できる場を設け、行事の活性化に繋げていく。</p> <p>②本校における組織的な支援体制の見直しと、更なる活用方法を明文化し、全教職員への周知を徹底していく。</p> <p>引き続き、継続的な支援を有する生徒に対し、様々な視点からのアプローチ方法を検討し、組織的な支援に繋げていく。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月11日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①幅広い進路選択に応えることができるよう、キャリア教育の充実と、進路支援体制を確立する。	①生徒の多様な進路を実現させるために状況に応じたキャリア支援を行う。 ②専門機関や教育相談連絡会議と連携した支援体制を充実させる。	①面談や進路希望調査等から生徒の希望進路を見据えて、必要な支援を行う。 ②SSW やハローワークなどと連携し、進路に向けて早い段階からの支援を行う。	①生徒の進路希望状況を把握し、状況に応じた活動ができたか。 ②専門機関や教育相談連絡会議と連携した組織的な支援体制を進めることができたか。	①面談や進路希望調査から、個々の生徒に対して情報を提供し支援していくことができた。 ②教育相談連絡会議と連携し、SSW を活用した支援を行うことが少しずつできている。	①多様な生徒の進路希望や、進路決定について消極的な生徒へ対応を考えていく。 ②SSW の活用方法や活用例を教員間で共有するなど、支援体制を整え、必要な支援を行うことができるようにしていく。	教職員だけの指導でなくSSW などの専門職の活用に加えて一人でも多くの生徒が進路決定できるよう、さらなる支援体制の充実に努めてほしい。	①適切な情報を提供し進路支援をしていくことができた。今後は年次等、段階に応じた組織的な指導を行うことが課題となる。 ②専門機関との連携が少しずつ取れている。実例を教員間で共有し、支援体制を整えていくことが課題となる。	①総合的な探究の時間やLHR を活用し、組織的なキャリア支援を行う。 ②教育相談連絡会議と連携し、専門機関を活用した進路指導体制を構築していく。
4 地域等との協働	①地域との協働・連携による開かれた学校づくりを目指す。	①保護者、中学生および中学校、地域、のそれぞれのターゲットに応じた情報提供を行う。PTA 活動や定通教育振興会、多文化ワーキンググループに関しては、今後のクラス減に伴う予算の減額や職員数の減少に対応できる体制の構築を目指す。	①保護者についてはデジタルでの情報提供チャンネルをマチコミに一本化する。その他についてはWeb サイトでの情報提供を行うとともに、中学校の教員に定時制の教育内容を伝える広報活動を行う。クラス減対策としては、校内組織や業務の見直しを視野にいれていく。	①適切な情報がそれぞれのチャンネルを通じてターゲットに届いているか。クラス減に伴う予算減、職員数減に対応することができたか。	①旧学区内の中学校への資料配付を行い、また本校での学校説明会の充実に努めた。定通教育振興会については、他校と合同で文化振興大会(芸術鑑賞会)を実施した。PTA 活動は、連絡を密に取り、業務量の削減を図った。情報提供チャンネルの一本化は、問題なく移行できた。今後のクラス減に伴う予算や職員の減への対応は、1年間を通じて検討を続けた。	①クラス減に伴う予算や職員の減への対応は検討を続けている。しかし必要性があり残っている業務もあり、取捨選択が難しい部分がある。	地域への広報活動やWeb サイトの早い更新は評価できる。地域の力を活用して職員減の一部を穴埋めできるとよい。コロナ禍前のように地域の行事に生徒が参加できるよう新たな協働を模索してほしい。情報提供チャンネルの一本化は評価できる。	①本校を進学対象と考える生徒・保護者への広報活動は成果を上げつつあるが、一方で職員の負担の増加につながらないようにする必要がある。 ②定通教育振興会の業務は数年後、湘南地区の加盟校が本校だけになるため職員の負荷が増えることも視野に入れ、検討する必要がある。	①広報活動については、業務負担と効果を常に検証していく必要がある。 ②定通教育振興会の業務は数年後、湘南地区の加盟校が本校だけになるため職員の負荷が増えることも視野に入れ、検討する必要がある。
5 学校管理 学校運営	①社会から信用される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底する。 ②教職員の働き方改革推進のために職場の意識改革を図る。	①事故・不祥事防止について、職員の意識の徹底を図り、事故・不祥事の根絶に努める。また生徒・保護者・県民に丁寧な対応を行うことで信頼関係の構築を目指す。 ②クラス減に伴い予期される教職員数の減少に対応できる組織改変と業務の効率化および均等化を図る。	①日常業務の中で教員間の情報交換を活発に行い、事故不祥事防止の意識を啓発する。また電話対応等で外部に丁寧な印象を与える対応を目指す。 ②ワーキンググループ等の整理や業務の適切な配置、仕事分担の均等化を進める。	①事故不祥事防止が職員を守ることが周知されているか。風通しのよい職場となっているか。また生徒対応、電話対応や来客等への対応が適切になされているか。 ②ワーキンググループの整理や業務の効率化、仕事分担の均等化が進んだか。	①事故不祥事防止について事故不祥事の根絶に向けた研修を職員全体で取り組んだ。 ②ワーキンググループの整理や業務の効率化については、グループ業務に位置付けることを検討し整理する方向性ができた。	①事故不祥事防止については、啓発を続け、形式的かつ他人事にならないよう、さらなる工夫が必要である。 ②組織の効率化については、組織改編と業務の効率化・均等化を目指してきたが、今後も検討を続ける必要がある。	①職員減で従来の活動ができない中で削れない業務を明示するなど業務の効率化が進んだかどうか定量的に可視化できるとよい。 職員減のなか事故防止を徹底しながら働き方改革を進めてほしい。	①保護者への連絡チャンネルをマチコミメールに絞ったことで、学校からの情報を保護者が受け取りやすくなり、一方で学校側の業務削減にもつながった。今後はクラスルームの使用方法を工夫する必要がある。 ②業務の精選と効率化は、今後も検討を続ける必要があるが、限界に来ている部分もある。	今後も効果を検証しながら業務の削減と効率化について検討を続ける。